



『いのちのために まじめに未来を考える。』

特定営利活動法人 生きものと食べものの未来

令和7年08月

蝉の声が響くたびに、夏の光がいつそうまぶしく感じられます。水辺の涼やかさや夕暮れの風に、ほっと息をつきたくなる 8月のはじまりです。

生き食べ未来通信は、「特定営利活動法人 生きものと食べものの未来」の会員様にお送りしています。皆様との情報提供・交換の場となればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

では、「生き食べ未来通信」8月号をお届けいたします。

// // // // I N D E X // // // // // // // // // // // // // // // //

- ・巻頭言.....
- ・活動紹介..... 7月の活動実績 / 今後の予定
- ・コラム：私の提言..... 出生数が70万人を切った…/自由主義社会では解決できないこと…
- ・投稿コーナー..... ワイン：第5章 ワインを楽しむ/戦争の愚かさ 恐ろしさ 平和の尊さ
- ・伝えたい・紹介したい記事… トランプ政権の不法移民摘発…/米、移民摘発で農業例外…
トランプ関税ショック…/米中AIウォーズ特集…
- ・お知らせのご案内..... 会員からの投稿を募集…など
- ・食べものの紀行..... 久しぶりの道東訪問
- ・コーヒーブレイク..... 推薦図書
- ・編集後記.....



巻頭言



猛暑の夏が始まりました。6月末には梅雨が明けるという前代未聞、観測史上初めてのことが起きました。いよいよ地球沸騰化時代に突入したようです。ことしは戦後80年、昭和100年、特別な年、8月は、戦争の悲惨さ、虚しさ、あらゆる面から、いのちを身近なものとして考える特別な月です。「自分たちの死は無駄じゃない。『未来の日本のために』自分たちは死ぬのだ。」と覚悟を決め、若くして戦場で散ったひとたちが生きていれば、100歳前後の年齢です。彼らが残した未来＝現在に生きている我々は、これから「未来に生きる人＝若者や未だ生まれていない人」に対していのちをかけて守り抜き、残すべきもの、

残すべきことがあります。それが環境であり、生態系であり、風光明媚な日本の原風景です。参議院選挙が終わった。国政選挙は、国家のあり様を未来志向で論じ、それを踏まえて投票する。立候補者はだれも

そんなことは言わず、目先の「物価高対策、消費税減税、現金給付、移民政策」が論点の中心となった。結果は与党の過半数割れ、国民民主党、参政党の躍進、多数政党による「政治の混迷化時代」突入したようです。

トランプ関税が「車・相互関税 15%」でひとまず決着しました。関税でいつも問題になるのは自動車輸出への影響である。輸出が出来なくなると「日本の産業が大打撃を受ける。」と。自動車は工場で製造する。工場や製造設備、従業員賃金、全て原価に組み入れ、売価に跳ね返る。トヨタ自動車の社員平均給与は 983万円（40.7歳 2025年3月）であり、年間 4兆円も利益を出している。トヨタの自動車がトランプ関税で高くなると騒いでも国内で高いと言って騒ぐことは無い。一方無償労働に支えられているコメが高いという。コメづくりの仕事の半分は、水田を維持するための畔や水路の整備である。これらは、無償の仕事であり、先祖から受け継いできた。離農した高齢者は地域の行事として畔や水路整備に参加して地域コミュニティを維持している。国土の 70%が山地であり、中山間地域でのコメづくりが 80%であり、平地でのコメづくりは 20%しかない。「中山間地域の棚田で畔や水路の整備を怠れば、平地へ水が流れない、平地のコメづくりができない。」その事実を知らないのである。そしてまた、水田涵養ができなければいずれ地下水が枯れるのである。

小泉農水産大臣は、シャカリキになってコメ価格引き下げに取り組んでいる。コメが安くなったと「古古米」（本来の用途は家畜の餌）を喜ぶ消費者、不法移民の低賃金に支えられ、政府の輸出補助金で価格競争力を付けた「カリフォルニア米」が安い米としてスーパーにならぶ。どこかおかしくありませんか。

グローバル化の名の下、成長をあまりにも目先の「簡単・便利で低価格」に求めすぎた。結果、ほとんどの国民に「今だけ、金だけ、自分だけ」感情が染みつき、蔓延し過ぎた。それそろ、冷静になって考える時期がきている。コメの高騰が、いままで食料自給を犠牲にしてきた経済の功罪に対して冷静な判断をするきっかけになれば幸いである。

戦後 80年、平和を考える特別な 8月、国内では政治の混迷をはじめ課題が山積しています。海外ではロシアのウクライナへの侵攻、イスラエルのパレスチナ占領、アメリカ・イスラエルのイラン攻撃、GAFAMによる世界制覇と生成 AIの進化、地球温暖化など数えあげればきりがありません。

《生き食べ未来通信》 8月号に 昭和 20年 8月 9日長崎で被爆された会員のお母様からの手記を掲載します。80年前の悲劇、現在も繰り返す戦争に常に自分の考えを持ち、意見を述べる、これが「民主主義」の原点と信じています。微力ではありますが、「声を上げる。」直面する危機に対して傍観者となることは「罪」です。そんなことを思いながら、みなさんに特別な年の《生き食べ未来通信》 8月号をお届けします。

特定非営利活動法人 生きものと食べものの未来 理事長 川上龍太郎





4日（金）理事会（川上、竹田津、里山） @あすみん

- ・福岡市役所市民公益活動推進課へ提出した報告書（修正分）確認、ホームページの変更（毎月更新すること、《生き食べ未来通信》の掲載）確認
- ・会員拡大策（就職先企業へ勧誘案内など）の打ち合せ他

4日（金）リーフレット改訂版 リリース

- ・注文は竹田津副理事長へ

9日（水）九州大学生命機能科学部門（川上、里山）

- ・八代未利用資源トマト事業計画報告

18日（金）ママミール社定期訪問（川上、竹田津）

- ・新しい商品の開発の進捗状況の確認及び朝食抜き園児対策などへの助言他

22日（火）鶴見運送定期訪問（竹田津）

23日（水）森光商店定期訪問（川上）

- ・高オレイン酸大豆商品情報及び新商品開発（ラテ・プレミアム豆乳などの高単価商品）と販路に関する情報確認

24日（木）福岡市NPOボランティアセンターあすみんの 2025年度利用更新手続き

30日（水）九州大学農学部 学生向け活動に関する相談（川上、里山）

★未来を担う理科好きの子どもへの事業：実験教室

テーマ：バスボム作り！化学変化de遊ぼう！

日 時：7月 29日（火：夏休み）13時～15時

場 所：あすみん（福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4F）

♡♡ 満員御礼 ♡♡



【今後の予定】

- 8月15日 鶴見運送社定期訪問 提出書類の確認
- 8月22日 ママミール社定期訪問（川上、竹田津）
新しい商品の開発の進捗状況の確認及び課題への助言他
- 8月22日 森光商店定期訪問（川上、竹田津）
販路候補先の報告他

NPO活動に関する打ち合わせ（日程未定）

★未来を担う理科好きの子どもへの事業：実験教室

テーマ：見え方ってナンダ？VRと錯覚の実験工作

日 時：8月 3日（日）13時～15時

場 所：[あすみん（福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4F）](#)

概 要：VRゴーグルを使ったことはありますか？
とってもリアルな体験ができますね。
このゴーグル、いったいどうなっているのでしょうか？
とっても難しいようですが、実は、2つの👁️虫眼鏡で体験できる
のです。という、開発者さんに怒られそうですがw
自分で体験しながら、VRの原理を探ります。



日 時：9月15日（祝日）13時～15時

場 所：[あすみん（福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4F）](#)

テーマ：プPOPププラバンプラースチック！（仮）

日 時：10月13日（祝日）13時～15時

場 所：[あすみん（福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4F）](#)

テーマ：びよよ～～ん！ゴムの実験・生ゴムのボール作り

定期訪問は、「生き食べ未来」とコンサルティング契約を締結しているために行うものです。

詳しい内容
お申し込みはQRコードより
お願いいたします。





コラム：私の提言

出生数が70万人を切った現実と対策 「価値観変化へのアプローチ」

2024年に生まれた子どもの数が 67万6千人となり過去最少を更新した。出生率も 1.15で過去最低である。1973年の 209万人のピークから減少傾向である。

その間政府は無策ではなかった。児童手当、育児休業給付、保育サービスの充実、数えきれないほどの施策を行った。民間の企業もそれに呼応して対策を打ってきた。しかしながら、一向に改善しなかったのである。原因として揚げられるのは、婚姻数の減少とともに物価高、教育費の上昇、育児に金がかかる、住居スペースが狭いなど経済的要因を挙げられることが多い。しかしながら、世界中で出生率が高いのは宗教が影響するイスラエルやアフリカなどの貧困国である。これらの国では出生率が経済的要因に全く関係ないのである。

イスラエルは先進国の中で突出して出生率が高く 3%前後である。イスラエルは、晩婚化や女性の就業率上昇など、出生率の低下につながる先進国にありがちな社会的・経済的条件を全て満たしているにもかかわらず、過去 30年ほぼ一貫して出生率が上昇してきた。23年も 2.84、24年はさらに高かった可能性があると言われている。同国では宗教が、人々の住む場所から生活様式、教育など多くの側面に影響を与えている。世界のトレンドに反してイスラエルの出生率が上昇している理由は、「産めよ、増やせよ」を尊ぶ宗教が大きく影響している。迫害を受けた民族として人口を増やす必要性を国民が納得しているからである。23年 10月ハマスによるイスラエル奇襲攻撃が一般市民の間にナショナリズムの炎をあおった。ハマス奇襲攻撃後、イスラエルではベビーブームが起きている。

アフリカで出生率が高い理由は、貧困家庭が多く一家の働き手を増やそうとするためである。また、18歳未満で女性が結婚・出産する風習が出生率の高さに関係しているとも言われている。また、乳幼児の死亡率が高いこれらの国が、衛生・栄養状態が改善され、今後も出生率の高さを維持し、爆発的な人口増加を起こせば、国が人口抑制策を導入する可能性があり高い出生率を保つかは不明である。

日本の 20歳代未婚男女の「実質可処分所得」は、物価上昇率程度で賃金上昇しているが、ここ 10年ほぼ同じ水準である。結婚しない人が増えているのは、経済的問題より、一人で暮らすためのインフラが整っている、スマホでいつも繋がっている、一人が気楽で良い、子育てが面倒など、社会インフラの充実と価値観の変化の影響が大きい。既に政府の支援規模は大きい。しかしながら成果がでず、益々出生率が低下している。これは、政治的最重要課題であるが、将来の年金制度、福祉政策、移民政策だけでなく、現在の「手取りを増やす」政策といった目先の経済優先の取組では、解決不可能なのである。

ちなみに私は、妻が学生結婚、休学しての出産、東京から京都までの妻の通学時には有給休暇を取得して「子守り」、40数年前に「育メン」を経験、卒業式には親子 3人で出席した。今のように育休など支援制度が無い時代、「子育て」は、やればできたのである。

これからは、若年出産、特に学生結婚のすすめ、大学時に出産、就職では子持ちを優先的に採用するなど「文化・宗教を含めた価値観」と『国家・民族』の存続といった「倫理、哲学的命題」に、非難覚悟で踏み込まなければ出生率の改善は望めないだろう。



コラム：私の提言

自由主義社会では解決できないこと。

中国政府にとってレアアースは戦略的な鉱物資源である。探査、開発、利用、規制的管理（環境対策など）政府が一括で取りまとめる。そしてレアアースや製造技術の輸出規制を決めている。電気自動車では基幹部品がモーターであり、ロボットでは、関節を制御するサーボモーターが基幹部品となる。その性能は、ネオジムなどを使用したレアアース磁石が左右する。かつては、日本が生産力で優性を誇ったが今では中国が世界シェアの8割を誇る。

世界で AI搭載のヒト型ロボットを生産できるのは中国のみになりそうである。日本では、既にヒト型ロボットの開発から撤退し、実用型ロボットを優先、「車輪にアーム」を付けただけの用途別シンプル構造のロボット製造へと転換している。なぜヒト型にこだわるのか、中国の技術者は「人間には用途制限がなく、汎用性があり何でもできる。ロボットも将来的にそうなる。」と考えている。人がやりたがらない作業はすべて AI搭載のヒト型ロボットに置き換わる、そんな将来像から戦略を立て、原材料、技術全て自国で賄うことを前提としている。ロボットだけでなく、今までの太陽光パネル、半導体、スマホ、電気自動車、医薬品原材料にいたるまで、あらゆるものが国家戦略に基づき実行されている。その結果、世界市場を押さえるまでになった。日欧の植民地となり、辛酸をなめ、世界の工場として低賃金、低価格で製品を製造する中で学び続けたことが花開きつつある、それが現在の中国である。「14億の民を飢えさせない、みんなの食料を備蓄する、国民を豊かにする。」それが国家の国民に対する責任である。当然中国ファーストであり、そのためには習近平主席のように強いリーダーシップで国家を牽引する必要がある。

日本は、産業政策における国家戦略や中長期視点の欠如がある。世界に先駆けて提唱した「水素社会」も企業が事業化していた自動車の普及策が中心で、最重要の水素調達が最初から輸入を選択した。その輸入先としたオーストラリアが水素生産から撤退する。これには、グリーン水素として関西電力、丸紅、伊ワタニなど関わっていたのである。一方中国は水素を石油に次ぐ次世代のエネルギー安全保障の一つと考え取組み、今では世界最大の水素生産大国となっている。採算性が問われる資本主義では対応できない国家プロジェクトなのである。

ヒト型ロボット戦略は、最重要課題である少子高齢化、人口減少の解決策の一つでもある。数十年先を見据え、国の資源や資金、人材の配置を設計し、AIやエネルギー、素材など点-inするイノベーションを繋げている。これは計画経済や国家資本主義のようで、本来自由経済には似つかわしくない。しかしながら、今の自由主義社会は、圧倒的な産業競争力を持ってしまった専制国家の台頭の前になすすべがないように写る。自由貿易を崩したのはアメリカでありながら、トランプ関税ですら、レアアースが原因で中国に譲歩した。

人類は試行錯誤を経験し進歩してきた。資本主義は、経済を活性化させ、社会の進歩に大いに貢献してきたことは間違いない。しかしながら欧米は、「力は正義である。」とする哲学で、略奪・搾取を正当化し、領土を拡大、富を増大してきた、奴隷制度、植民地化は最たるものである。今でも、性悪説をとり、「中国」を敵と見たてて潰しにかかる。日本は、「正義は力である。」とし、性善説をとり、幾多の裏切りも受けてきた。平和ボケしていると言われるが、それでも世界から尊敬のまなざしで見られている。アメリカの悪あがきに追随するのか、日本独自に生きる道を選択するのか、どちらに賛同するか個々人の哲学の問題であるが、岐路に立ち、考える時期になったと痛感している。

川上龍太郎



ワインほどわかりやすく単純な酒はない！：第5章 ワインを楽しむ

今回の第5章で最終回となりました。ここまでワインに関するブドウ栽培、醸造、販売の本質を裏側からご紹介して来ました。本 NPO活動の会員の大半の方々が農業や農産加工業に携わっておられると考え、少しでも参考になればと考えたからです。門外漢の方々には少々退屈な細かな話に終始したことをお詫びします。最終章ではこの寄稿の本題である「ワインほどわかりやすく単純な酒はない！」を飲み手の視点で解説してみます。ワインとどのように付き合い、どのように楽しく自分の人生に取り入れるかについて、私の永年のキャリアとテイスティング経験から単純明快にお伝えします。あくまでも私見ですから、自分流をお持ちの方は聞き流してください。

「マナーは学び、蘊蓄は聞き流せ」

ワイン消費の障害になっているものに様々なマナーがあり、小難しいと感じる方々が多いのではと思いますが、マナーは歴史的には先人の体験した知恵がベースにあり、試してみると合点のいくことが数多くあります。加えてそれぞれに化学的な裏付けがあるのです。高級ホテルでグラスワインをオーダーすると、最高においしい状態で持ってきてくれます。プロのサービスに高額な対価を支払うのはそのためですが、品温、グラスの種類、注いだ液量が最高の状態で美味しく飲めるように計算されています。

①グラスは安価なワインでも大きいグラスで飲むべし！

⇒大きなグラスの中では香りが立つし、上手に回してグラス壁面にワインを馴染ませると、揮発して香りがより立ちます。加えてワインが酸素によく触れて、タンニン（渋み）はまろやかになり閉じていた香りは開いてきます。



⇒大きなグラスに少量注ぎ、香りや味の変化を楽しみながらゆっくり飲むことで、自然と大量飲酒にならない飲み方になります。一気に飲み干す飲み方にならないから不思議なものです。これには後述する食事との関係もあります。ただし、大きなグラスでゆっくり飲むとワインの温度が上昇してきますので、美味しく飲める温度になるように加減をしてください。冷えすぎた赤ワインを両手で温める時にも大きなグラスが向いています。

⇒大きなグラスはスーパーに並ぶ1脚千円台のもので十分です。高価なグラスは扱い慣れてから購入すれば良いでしょう。ワインのタイプでグラスの形や大きさを考慮するのは、次のステップで挑戦すれば十分です。

②白は冷蔵庫温度で、赤は室温よりやや低い温度で飲むべし！

⇒白ワインの美味しさは酸味の美味しさ、赤ワインの美味しさは渋み＝タンニン分の美味しさです。酸味は温度で感じ方が大きく変化しませんが、冷やした方が酸味がシャープに感じられ美味しく感じます。熟成した高額な白ワインは酸味も熟成でまろやかになりエステル香が作られ、豊潤な熟成香と多くの呈味が感じられるため、冷やすのをやや控えめにした方が美味しいでしょう。

赤ワインの渋みであるタンニンは、温度が低いと強く感じます。ボジョレー・ヌーヴォーを冷やして飲むのは、特殊醸造で生まれる花のような香りと少ないタンニン分を美味しく感じるためです。タンニン分のリッチなフルボディの赤ワインは、あまり冷やさない方が熟成した渋みを美味しく味わえます。

③ワインが食事を美味しくするのはなぜか？

⇒食前酒としてシャンパンやシェリー酒などを飲むのは、メインディッシュを頂く前に、炭酸ガスや高アルコールで胃を刺激し、食欲を出させるためです。ウイスキーをストレートやロックで飲むのも胃に活を入れてくれます。他の酒類に比べてワインが際立っているのは、白も赤も酸味がある点です。アルコール分も12度あります。ワインが食中酒とされるのは一口食べた後、舌の上や口中に残った肉類の脂肪分やチーズなどの乳成分をワインが酸洗浄、アルコール洗浄してくれ、次に異なる料理を味わう時に毎回洗浄したフレッシュな舌の味蕾細胞が新たな味を感じてくれるからです。他の酒類にはアルコール洗浄はできても酸洗浄は出来ません。

④蘊蓄は潤滑油として聞き流せ！

最近「ワインの知識が教養として必要だ」などと主張する本を見かけます。またワインを難しくしそうで困ったものです。ワインは一人酒ではないので、同席者に対するサービスとして一緒に飲むワインの蘊蓄を披露しているのだと思います。共通の話題がない、政治、宗教などの話題を回避したい場面では、ワインの産地、年号で共通した話題が作りやすいからです。飲むワインの出自や美味しさを解説として聞きながら飲むのも悪くない話です。

但し、相手をご馳走してくれたり、苦勞して選んでくれたりしたことに對する礼儀としては、銘柄やワインの味わいについて質問や感想を伝えることがマナーだと思います。食材や料理については結構専門的な事をご存じの方が多く、ワインや清酒を選ぶ際に好みを伺っても何のメッセージも発信されないのは、選ぶ人にとってはちょっと残念なことです。食材と同等の興味や知識は日常的に酒を楽しむ以上、持っている食事を楽しみやすく味わえます。

「ワインを購入する際の選び方」

自分で選んで自宅で楽しむためには、まず自分の好みを把握することが早道だと思います。

①原料ブドウの品種で好みを見つける

ワイン用ブドウの品種は世界で1千種以上あると言われていますが、当面の目的を達成するために白品種3つ、赤品種3つから始めてはいいかかと思っています。

白：Aシャルドネ (chardonnay)

Bソーヴィニオン・ブラン(Sauvignon Blanc)

Cリースリング (Riesling)

赤：Dカベルネ・ソーヴィニオン (Cabernet Sauvignon)

Eピノ・ノワール (Pinot Noir)

Fメルロー (Merlot)

スーパーのワイン棚のカジュアルワイン（＝ブレンドワイン、価格帯が800円以下）を除くと、残りの80%近くがこの6品種のワインです。栽培が難しいCとEの品種を除くと、世界中で広く栽培されており香味も優れています。白3つを同時に飲み比べて、香味を比較して好みを選びます。後日赤3品種も同様に比較し好みの順番を決めます。香味の記憶は1日で曖昧になりますので、この操作だけは3品種同時にやるべきです。最近は売り場のプライスカードに品種名も記載されているので選ぶのも簡単です。伝統的に欧州ワインの表ラベルは産地表示が基本で、品種名は表示されていません。対して北米、南米、オーストラリア他の新大陸のワインは、表ラベルの品種表示でわかりやすくなっています。さらに瓶の形も異なっているので、選ぶ際の手助けになります。AとEはなで型ブルゴーニュ瓶、B、D、Fはいかり型のボルドー瓶、Cは背が高く首の長いスマートな瓶型をしています。欧州伝統国の瓶型が全世界で踏襲されています。

実践例を一つお伝えします。スーパーで簡単に手に入るワインです。

●チリの手ブランド（3～4社）の中で、1社に絞る上記の白・赤3品種が同じラベルシリーズで売られているものを選ぶ（1,000円クラスで、差がわかりにくい時は1,500円クラスで揃える）チリワインは品種特徴がはっきりしていて、シリーズで品種が揃っているからです。

好みの品種が見つかったら、その品種の国別や価格帯別の様々なワインを試して、産地国、価格帯が固まったらその国のいろんなメーカーを試すと楽しくなります。このような一連の探索がバラエティシーキングと呼べるわけです。

②ワインは飲み切らなくても構いません

ワインの常飲化を妨げているものに、「栓を抜いたボトルは飲み切らないといけない」と考える誤解があります。品質劣化についてはは次の点を覚えておく判断しやすいです。

- ・劣化は酸素の溶け込みと保存温度が原因
- ・酸素は低温の方が溶け込みやすい（冷蔵庫5度と室温25度では50%の差）
- ・温度は低い方（冷蔵庫温度）がベターだが、フルボディの赤ワインではタンニンの沈殿が起こりうる）

⇒結論はまず酸素を極力通さないようにゴム栓や抜いたコルク栓で固くしっかり密閉する

⇒赤白ともに冷蔵庫にいれ、赤ワインだけは飲む1～2時間前に室温に置いて温度を上昇させる（多少のタンニン沈殿はやむなし）

③開栓後の変化と品質

カジュアルワインと中高級ワインでは、ワイン中の成分に大きな差があります。ブドウの栽培でも触れましたが、ワインにした時の成分にその差が表れ、カジュアルワインには開栓後、酸化劣化する成分が余り多く含まれていません。従って酸素を吸い込んでもあまり大きくは変化しません。飲み残しても数回に渡り2週間かけて飲んでも、大差ない味わいで楽しめるかと思います。二日目の方が酸化で香味が開いて美味しく感じることもあります。一方、味わいの豊かな中高級ワインは豊富な成分や熟成させてから販売されていることもあり、開栓後はタンニン（ポリフェノール）が酸素に触れると沈殿したり酸化するスピードが速いです。高額であればあるほど1、2回で飲み切ることをお勧めします。

④価格帯別の楽しみ方

●カジュアルワイン（900円以下＆箱ワイン）

常飲的に毎回1～2杯楽しむ。食事を美味しくする食中酒として、大量飲酒しないこと。

●中価格帯ワイン（900円～2,500円）

ワイン選びの楽しさはこの価格帯で、いかに美味しくてお得な価格のワインを見つけるかにあります。特に1,200～1,500円帯が醍醐味です。ワインの品質は価格とほぼパラレルですので、価格が高いワインの方が美味しいのは当たり前です。この価格帯のワインは数回でもしくは数名で飲み切ることをお勧めします。

●高価格帯ワイン（2,500円以上）

このクラスは第4章で述べたように、売り場を選んで買うことが大事です。5,000円以下はワイナリーも量産していますので、価格もお得なこともあります。5,000円以上はプレミアムワインですので出荷量も少なく、ブランディングのための高価格プライシングもあるので、必ずしも価格とパラレルな品質と思えないワインもあります。しかし美味しいワインに巡り合った時の感動は、他のお酒の比ではないものです。過度に重量のある重厚な瓶に詰めてバリュー感を出そうとしているワインは、エコロジーの観点で受け入れがたいと思います。

ここまでやや断定的に飲み方を提示してきたのは、わかりにくいワインをわかりやすくして迷いなく早道で楽しむためです。

最後にドイツの文豪ゲーテが残した次の名言の英訳版をお届けしてお終りとします。精読頂きありがとうございました。
(注：BAD=つまらない)

LIFE IS TOO SHORT TO TASTE BAD WINE !

尾上剛





投稿コーナー

戦争の愚かさ 恐ろしさ 平和の尊さ

初めまして、（く）です！

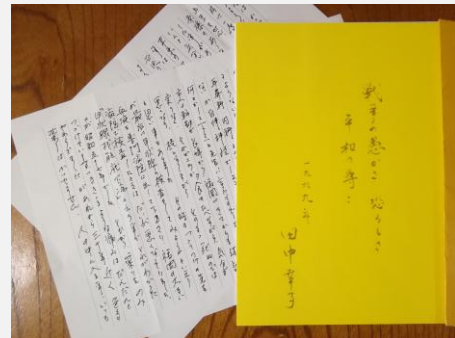
初めましてと書きましたが、実は、《生き食べ未来通信》の読者の皆様とは、毎月、最初の頁の2行と、最後の頁の2行でご挨拶させていただいています。お気づきの方いらしたら、うれしいな。

（く）は、『NPO法人 生きものと食べものの未来』では、活動紹介のページでお知らせさせていただいている、『★未来を担う理科好きの子どもへの事業：実験教室』を担当させていただいています。

実験教室の内容は、ブログに毎回upしているのですが、年に一度だけ、長崎原爆祈念日前後に、実験とは関係なく、（く）の思いを綴る特別な日があります。それは（く）の母、田中幸子が1999年に、（く）の子どもである田中幸子の孫のために書いた手記『戦争の愚かさ 恐ろしさ 平和の尊さ』を、より多くの方に読んでいただきたいと願っているからです。

このたび、この投稿コーナーにて、その手記を載せていただくことになりました。

2025年は、戦後80年。昨年ノーベル平和賞が日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)に授与されたこともあり、新聞などでも、こういった話題がほんの少し多くなっているように思います。すこし長いですが、《生き食べ未来通信》の読者の方々にも、お読みいただけたら、大変うれしく思います。



戦争の愚かさ 恐ろしさ 平和の尊さ 田中幸子

テレビの画面で8月6日広島、8月9日長崎の原爆記念の式典を見ながら、戦争・原爆の体験した人の平均年齢が六五歳くらい(1999年現在)になっていることを知り、その時のことを証言できる年齢も私たちが最後なのかもしれないと思いました。

戦争によって自分の意志でなく戦場に狩り出された人達・空襲により命を落とした人達・日本の植民地支配によってたくさんの悲しい思いをした中国・朝鮮の人達のことは、貴方達が中学生高校生になる頃は日本人の心の中から消し去られ、戦争を美化され、遠い遠い過去のこととして忘れられることが、一番恐ろしいことだと思いました。それならばたとへ百万分の1しか表せないとしても、書き残すべきことだと思い、筆を執ることにしました。

私は、昭和8年(1933年)4月生まれで1999年の今日66歳になります。

日本がアメリカ・イギリスを相手に戦争を始めたのは、昭和16年(1941年)12月8日。小学校に入学してから卒業するまでの六年間は、全部戦争一色でした。世の中が何となく怪しい方向に進んでおり、天皇は神様、軍人それも自分から好んで軍人になった人達(職業軍人)は偉い人という感じは、まだ六歳の私にも理解できるような雰囲気でした。

私は美しい山々に囲まれた長崎市で十歳年上の兄と、五歳年上の姉の三人兄妹の一番下に生まれ、諏訪神社が子供の頃の遊び場でした。勝山小学校という歴史の古い長崎で一番大きな小学校に入学しました。入学と同時に学校の名前も国民学校と変わりました。それでもまだ一・二年生の頃までは、赤い花柄のワンピース・赤いランドセル・ゴムの匂いのクンクンする新しい運動靴を履いて学校に行っていました。1年1組、受持は袴をはいた優しい先生でした。三年生頃になると世の中は軍事色一色になり、街にはサーベルを腰に付けた軍人さんが歩き、戦争に一寸でも反対の意見・態度でも示そうものならすぐに警察に連れていかれるという状態に変わっていきました。

学校では来る日も来る日も運動場で分列行進の練習です。竹槍で敵を突くという、今で思えば実に馬鹿

馬鹿しい事です、家に帰ると水を入れたバケツリレーで爆弾を消す練習です。今の貴方達にすれば馬鹿げた事だと思うでしょうが、戦争中は本当にそれで必ず日本は勝つと思ひ、又そのように勝っているという発表ばかりがラジオ・新聞から流れました。その頃はもう赤いワンピースなどは勿論、すべての食料・衣類は切符が配られて、店には品物はほとんどありませんでした。

学校に行くときは母親の着物をほどいて、モンペ（パンツの足首を絞ったもの）をはいて、胸には住所・氏名・血液型を書いた大きな名札をつけて、頭には防空頭巾を被って通学していました。名札はいつどこで空襲にあって死んでも身元がわかるようにです。英語は勿論駄目、全ての楽しい事・おしゃれする事は全部駄目でした。鉄・金・銀は全て国に差し出しました。「ほしがりません勝つまでは」・「天皇陛下のためなら なんて命が惜しかろう」そんな歌ばかり習っていました。四・五年生になる頃は食料品も街の市場や店から無くなり、田舎まで着物をもって芋やカボチャなどと交換して貰うのです。お金があっても何も買えないから物々交換です。サツマ芋の中に米がくっついているような主食、たまに真っ白の米のご飯と思って飛びつくと、それはジャガ芋だったりして、大人達はジャガ芋を米粒ぐらいに切って炊いて、せめて子供の目に白米と思わせたのでしょう。ダツシ大豆（大豆の皮を押しつぶしたもの）のご飯、とにかく口に入るものは何でも食べましたが、海草ダンゴ（海辺に打上げられた藻）だけはどうしても食べる事ができませんでした。芋・カボチャはなによりの上等な主食です。おかずなんて全然ありません。芋のツル・のびるなどとても大切なおかずです。

お弁当は箱の中にカンパンを入れて、量が少ないのでカランカランと音がするのです。それに湯を入れて、勿論茶の葉などありません。三倍くらいにふやかして食べていました。それでも田舎の子供は白米のお弁当など持ってくるのです。うらやましいと言うより、憎たらしく感じたものです。

昭和20年頃になると、だんだん空襲が激しくなり、夜床に就くのも着のみ着のままです。敵の飛行機から明かりが見えると云うので電球に黒い布をかけて、本当に耐え難きを耐えるという生活で、B29がゴウゴウと唸るように長崎の空を埋め尽くす日が多くなってきました。戦争が終わってからも長い間飛行機の音が怖くて、身がすくみました。

50年過ぎた今日でもまだ 8月9日の長崎に原子爆弾が投下された時の事は、鮮明に頭の中に焼き付いています。小学校六年生でした。11時頃、空襲警報が解除され、そろそろお昼にしようと思っていると、遠くから爆音が聞こえてきました。敵が味方か見てくると庭に出たとたんでした。目の前にピンク・黄色・青の大きな火柱が落ちてきました。一瞬にして家の中はめちゃくちゃになりました。玄関の戸は六畳を突き抜けて外に飛び出し、ガラスというガラスは全部割れて、三階建ての我が家は傾きました。電気時計がぶらんと下がっていました。とにかく何がなんだか、どうして百メートルぐらい離れた横穴の防空壕までがれきとガラスの中を素足で走れたのかもわかりませんでした。父と姉は九電で被爆。兄は戦争にとられていました。私と母は中心地から 2.3キロの自宅だったので直接死んだ人は近所でもいませんでした。しかし下痢と発熱で、毒を出すために柿の葉を煎じて飲みました。砂糖などあるはずもなく、その苦さはとにかく大変なものでした。

新型爆弾が落ちたということばかりで何もわからず、昨日とは全然違った街の姿でした。中心地では一瞬にして何万人もの人が白骨となり、1キロくらいまでの人は黒いスミと化していました。ヤケドの人達は、苦しみもがきながら水を求めてさまよい死んで行ったのです。

街の中は荷馬車に火傷の薬を真っ白になった人が折り重なるようにつまれてどこに行くのか、何台も何台も運ばれていくのです。あの人達もいずれは死んでいかれたことでしょう。

我が家でも父の遠縁の叔母さんが、やっと探して中心地近くから逃げてこられました。もちろん家は全滅ですが生きていてよかったよかったと、大切にとってあった白米（これは兄が戦争から生きて還ってきたときに食べさせるために大切に大切にあってあったものです）でお握りを作り、食べてもらいました。とってもおいしそうに食べられました。みなお腹は空いていても叔母さんに食べさせるのがもったいないなど思わなかったのです。外出中で難をのがれた叔父さんが連れに連れられ田舎に行かれましたが、しばらくして体中の穴という穴から血を吐いて、なくなられました。叔母さんは外見は何ともなかったのですが。

又、知り合いの叔父さんが中心地近くの自宅に帰ってみたら、お腹に子供がいる奥さんと二人の子供が生焼けだったとかで、自分で何時間もかけて焼いて鉄兜（ヘルメット）の中に骨を入れてつれて来られました。叔父さんの涙が今でも忘れられません。

8月15日、ラジオで天皇の話があるということで、近所の人達とピーピー鳴るラジオの前に正座をして聞きました。よくわからないまま、とにかく日本は戦争に負けたことだけは理解できました。十二歳、小学校六年の私は今日から安心して床につける・爆弾の恐ろしさからも解放されるということで、とにかくうれしくてうれしくてたまりませんでした。学校が始まると毎日、「神風が吹く」・「天皇は神様」・「鬼畜米英」など書いた国語・歴史・社会等の本は、ほとんど黒くなるようにスミで消すのです。言論の自由など一つもない、言わば洗脳された状態にそれまではおかれていたのです。それが8月15日から、人間はみな平等・人間天皇・民主警察となるのです。

私たちは終戦日の後すぐに、アメリカの兵隊が来て男子は殺され女子は奴隷にされるということで、とにかく中心地を通して長与と言うところに行きました。中心地は全部焼け野が原、まるで地獄のような姿でした。生焼けの牛や馬がごろごろしていました。シャレコウベもゴロゴロとして、ちょうど食卓を囲むようにここは何人家族だとわかるような状態でした。その何とも言えない匂いは忘れられません。長崎医大は中心地からどれくらい離れているのでしょうか。たぶん一キロとは離れていなかったでしょう。階段教室の中で座ったままスミのような状態で人間の形のままでした。勿論、長崎全体がざわざわとしている中、いたるところの小中学校で死んだ人を焼く匂いが立ち込めて、それが何日も何日も続きました。何年もの間魚やスルメの焼く匂いがどうしてもかげませんでした。相変わらず戦争は終わっても、住む家・食料品・衣料品は不足していました。でも生きているだけで有難いことです。

爆弾で死んでいった人達・自分の意志でなく、戦場にかりだされた人達・若くして片道だけの燃料で敵の船に突っ込んでいった特攻の人達、その人達のおかげで今日の平和があるのです。日本国民の意思でなくとも、日本のために初めた戦争です。しかし、そのために多くの中国・朝鮮・南洋の人達を苦しめたのも事実です。やはり、忘れることはできません。人は、のどもと過ぎればあつさ忘れると申します。貴方達が大きくなって、完全に心の中から戦争の二文字が消えた時、また戦争を美化してしまうかもしれません。次の時代の人達に、多くの善良な国民の犠牲の上にこの平和があることを伝えていかなければなりません。

私の十歳年上の兄もシベリアに抑留され、やせ衰えて本当に惨めな姿でかえってきました。それから何十年もして兄が大病をしたとき、うわ言で出る言葉は戦争のことでした。それだけ心の中に消し去れない傷として残っていたのでしょう。どのような理由があろうとも、戦争は二度と繰り返してはいけません。

貴方達の英知で、平和がいつまでも続くように努力してください。そして友達に語り継いでください。

人間には上も下もありません。人間みな平等だと思います。

一番大切なのは人間の生命です。そして平和ではないでしょうか。体験したことの万分の一しか書けませんでした、とにかく戦争の愚かさ・恐ろしさ・平和の尊さをわかって貰えればと思います。

1999年（平成11年）原爆記念日そえてに続く

そえて

戦争のことについては、孫たちに残す意味で書きつづってきました。

私自身の身体の事を書きたいと思います。

よく鼻血が出て、貧血がありましたが、昭和54年頃から、だんだん調子が悪くなりました。声がかがらした声になり、のどから鳩尾（みぞおち）にかけて焼火箸でつきさされるような痛みが毎日毎日続きました。

耳鼻科・内科といろいろ通院しましたが、何ともないか自律神経でしょうと言われてたり、よく何とかしてと先生に言ったものでした。

主人の転勤で長崎から福岡にきてからも体調は変わりなく、それどころか夕食を食べながら、気分が悪くなり、横になりながらそのまま死ぬのではともうございました。その時のかかりつけの先生が最後に甲状腺の検査をしてみようかといわれ血液を専門病院に出して下さり、福岡の大きい病院で検査した時には、だいぶ悪くなっていました。「甲状腺機能低下症」ということで、それがわかったのが昭和57年でした。

それから、薬をのみつづけています。突き刺さるような痛みはだんだんとやわらぎましたがあれから三十年近く色々の薬はかかせません。人の中に入るとき、いつも安定剤はかかせません。それがないと心ここに非ずというような気持ちになります。

二カ月に一度の検査と色々の薬はやめることが出来ません。

原爆のあつまり、地区の被爆者のつどいにも出席したことがありません。何故なら集まりの中にいくと気分が悪くなるからです。

でも孫たちの為 未来の子供達に何かをのこさねばという事は人いちばい想っています。

世界のどの国でも、戦争がなくなりますようにと祈ります。

2015年（平成27年） 8月

2025年現在、母は、92歳になりました。3週間おきに美容室に行くおしゃれな人で、おかげさまで元気に過ごしております。

4月には、厚生労働省が30年ぶりに全ての被爆者から体験記を募るということで、それに合わせて、西日本新聞の記事で手記を紹介していただきました。

[こちらからご覧いただけます。](#)

（く）のブログの方では、2008年～2024年まで、長崎原爆祈念日前後に思いを綴らせていただいております。

[こちらからご覧いただけます。](#)



最後までお読みいただき、ありがとうございました。

（く）こと 久保 利加子





伝えたい、紹介したい記事

[トランプ政権の不法移民摘発 米外食産業に打撃、合法移民にも被害 2025.7.7日経ビジネス](#) の要約

パンデミック以来続く飲食業界の人手不足は、不法移民摘発で更に悪化

飲食業、取締りの標的に。飲食業界は、追加関税や人材採用で上昇するコストを顧客に転嫁しにくく、サービスの低下は必至である。「この人手不足は事業破綻の原因となりうる。」、この事態が続けば料理提供の遅れからメニューの縮小に至るまで「顧客体験の悪化は必至である。」と言われている。また、移民が多いロサンゼルスのレストラン経営者は「我々の事業には大打撃だ。人々が外出してお金を使うことを恐れている」と語っている。

[米、移民摘発で農業例外 人手不足で収穫できず ホテル従事者も配慮 2025.7.11 日経新聞](#) の要約

米国の農産物生産就業者の2割弱は不法就労とゴールドマン・サックスは推計しているが実際はもっと多いという。ロサンゼルスでは、果物や野菜が収穫されずに畑で腐り始めている。これまで収穫は不法移民が担っていたが収穫できない状態にある。「食料の生産・加工・食料品店への供給が益々困難になる」と指摘されている。そのため、農業やホテル従事者を強制送還の例外とする方針。不法移民に強硬路線をとるMAGA支持層の反発が強くトランプ政権は、不法移民の取り締まりを巡り難題を抱えてしまった。

[トランプ関税ショック 日経ビジネス2025.6.30号 アパレル工場に迫る大規模解雇](#) の要約

カンボジアはASEAN諸国で最高税率 49%をかけられた。カンボジアは、ナイキ、アディダス、GAP、そしてウォルマートのプライベートブランドなどの生産を請負い、アパレル産業が国内総生産（GDP）の一割を占めている。糸と生地は中国やベトナムから輸入、紡績工場や生地折り工場が無く、裁断、縫製、仕上げ加工を行っている。そのため、付加価値は2割を切っており、低いところでは1割に満たないという。アメリカは「中国から第三国を経由した迂回輸出」とみなしているが、これがアジアのアパレル企業の実態である。1,500の工場で、国民の17人の1人の相当する100万人が工員として働いている。「90日間の駆け込み増産が終われば、大規模なレイオフが待っている。解雇される人員を吸収できる産業がカンボジアにはない。」米中の狭間でカンボジアは身動きが取れなくなっている。

カンボジアは話題にもならないが、委託元がどんな対応をするのか注目している。

参考：トランプ相互関税ラオス 48→44%、ベトナム 46→20%、ミャンマー 44→40%

AI性能は、2024年から 25年にかけて米国と中国の差が顕著に縮まり、1年後には中国が米国を上回ると予測する。

中国は才能がある人材に投資し、国内で高度な研究や開発ができる環境を整えている。また、オープンなコミュニティを構築して開発を加速している。一方、米国では企業の強力な AIモデルを開発しつつも、多くは閉鎖環境の中、企業秘密の領域が多い。また、最先端企業のエヌビディア研究者の 50%は米国に留学した中国人である。既に開発環境や研究者数で米国は劣勢に立たされている。（ラッセル・ウォルド スタンフォード大学HAI 研究所エグゼクティブ・ディレクター）

米中AIウォーズ特集 日経ビジネス 2025.6.30号 中国のSTEM教育が生み出す「6頭の虎（ディープシークなどの6大スタートアップ）」

中国は STEM教育（科学、技術、工学、数学の学問分野）に力を入れている。スタートアップと大学との連携も進んでいる。博士課程の研究者は減少しているが STEM分野は増加しているのである。米中で AI人材獲得競争が激化している。

トランプが外国留学生を締め出せば、中国へ帰る動きが加速しかねない。AIを巡り地政学的な分断を作るべきではない。AI冷戦のリスクは軍事用途への転用や社会インフラに浸透するAIが制御不能になることである。これからは AI開発動向に注視し、いたずらに中国を敵対視し、排除するのではなく、日本を含む先進国は厳格に AIガバナンス枠組みを構築することが必要である。（マリナ・ユエ・チャン シドニー工科大学豪中関係研究所准教授）





お知らせとご案内

【連絡コーナー】

会員からの投稿を募集します。wordで作成1,000文字程度

テーマは会員に役に立つと自ら判断するもの、ジャンルは問いません。
尚、コピーや生成AIで作成したものはお断りします。

掲載分について、謝礼として図書カードを贈ります。

右のリンクからでもお受けいたします。

これを機会に積極的な《生き食べ未来通信》への参加をお願いいたします。



info@npo-ikitabemirai.org



【新規のご加入について】

今年度から賛助会員の入会条件が変わりました。

ご寄付の金額が3,000円以上で賛助会員となります。

会員の加入条件は変更ありません。

従来通り、入会金5,000円、年会費3,000円 です。

尚、当NPOが主催するセミナーでの講師や《生き食べ未来通信》への投稿などを前提に入会する場合、入会金を免除することがあります。

【今年度の会費納入とご寄付のお願い】

会費と寄付金振込先

福岡銀行 湊町支店（216） 普通1458561

西日本シティ銀行 港町支店（216） 普通3089256

名義：特定非営利活動法人 生きものと食べものの未来

年会費 法人：5,000円 個人：3,000円

※振込手数料は支払人負担でお願いします





食べもの 紀行

久しぶりの道東訪問

6月28日～29日に網走市で開催された日本食品保蔵科学会第74回(北海道オホーツク)・創立50周年記念大会に参加しました。道東に行くのも、網走市に宿泊するのも13年振りでした。

最近北海道も猛暑日になることがあるみたいですが、網走に着いた日の夕方の気温は 20℃以下で、とても涼しく感じました。

2日目は学会の学術交流会(いわゆる懇親会)だったので、1日目と3日目に網走市内のお店で、北海道らしいものをいただきました。どちらのお店も日本酒の品揃えが充実していて、大満足の食事でしたが、料金はそれなりで、福岡のコスパの良さを改めて感じた夜でした。



にしんのお刺身(左手前)は初めて食べました



にしんの焼きびたし



行者にんにくのおひたし



ほっけの一枚焼



学会の交流会ではにぎり鮨も用意されていて、ネタには網走産のウニも入っていましたが、さすがに大人気で行列ができ、直ぐになくなってしまいました。ウニに予算の多くを費やしたのか、全体的に食事の量は少ないと感じました(笑)。



新千歳空港で食べたカニちらし丼



網走市内で食べた味噌ラーメン

里山 俊哉





◆推薦図書：

「テクノ封建制」 著者：ヤニス・バルファキス 関美和訳 発行所：集英社



著者は、ギリシャの財務大臣を務めた経済学者である。資本主義の本質とここ数十年の資本主義の変容を鮮やかに描き出している。「テクノ封建制」とは、デジタルプラットフォーム（領土）をもつグーグル、アップル等の巨大テック企業が、かつての封建領主のごとく君臨するシステムを指す。伝統的資本家（事業主）は家臣として彼らに服従。「レント（地代）」を納めることで領土の領土でビジネスを行う。また、労働者は、「クラウド・プロレタリアート」に転落。アルゴリズムによって管理され、肉体の限界まで搾取されるほか、何十億もの人々は自主的に無償労働に励む「クラウド農奴」に。動画やレビューの投稿等を通じて、領主に膨大な利益をもたらしている。日本は現状がはらむ危険すら気づいていない。人工知能（AI）楽観論の下、知らぬ間に収奪され続け、デジタル植民地化する。自前のプラットフォームを持たない国の危うさは戦慄さえ覚える。GAFAMに食べ物にされていることを自覚させられる本であり、デジタル空間ビジネスの本質を的確に著している。これからは超富裕層に更に富が集中し、格差が拡大、固定化、封建制に戻ったような社会がやって来るとい、地球温暖化と同様に既に後戻りできない段階になったのかもしれないという、知れば知るほど未来に恐怖を感じえないのである。

「現代農業」8月号 発行所：農山漁村文化協会



「現代農業」は毎月発行の月刊誌である。特集が、『農家がリアルに考えた米の適正価格』である。小泉農水産大臣は本来家畜の餌である古古古米まで市場に流通させる奇策でコメ価格を低下させた。家畜の餌まで「安くて助かる」という「日本人はなんなのか」はさておき、当本は、生産者が考える「米の適正価格」を、現代のコメづくり農家の声を集めた特集として、「消費者はコメが商品であり安ければ良いと考えている」前提で編集部が考え、「お米の値段、どうあるべきか」の農政への提言である。興味がある人にぜひ読んでいただきたい。

稲作農家は平野部で100haを超える水田を担う大規模経営もあれば、中山間地域で数十枚にも分かれた数haの棚田を守る小さい経営もある。有機農業やアイガモなどこだわり栽培もあれば慣行栽培もある。そこから生まれるお米は同じようで同じでない。それぞれに応じた適正価格がある。それは稲作農家が存続できる価格である。棚田や水田が守る日本の風土、生態系の維持、数千年続いた日本の稲作には意味がある。カリフォルニア米では『日本の未来に残すべき原風景』の維持ができないのである。それらをどのように加味するかで適正価格を決める必要がある。



編集後記

気づけばカレンダーも 8月。蝉の声が全力すぎて、こちらの元気が吸い取られそうな毎日です。とはいえ、張り切って買った日焼け止めは、まだ半分も使いきれていません…夏って長い。みなさまも、どうぞご自愛のうえ、夏を楽しんでくださいね。

会員の皆さまからの投稿、引き続きお待ちしております。テーマは、環境・農・食、教育、福祉など何でも構いません。

また、企業のご紹介やイベントのおしらせ・よろずご相談などなど、どうぞお気軽に下記メールまでお知らせください。



info@npo-ikitabemirai.org

WEBサイト・FBページ・インスタ もあります。 マークをクリックして、覗いて見てくださいね！



(く)

令和7年 8月 発行責任者 川上龍太郎